

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870200938		
法人名	株式会社東海荘		
事業所名	グループホーム東海荘ひだまり		
所在地	日立市鹿島町2-12-9		
自己評価作成日	平成25年11月18日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0870200938-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0870200938-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成26年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

診療所の定期診察や緊急時の医療体制は整備され、在宅生活と同様の看取り介護を導入。最期の時まで住み慣れた環境で過ごされ、平成25年度中には2名の利用者様をホーム内で看取った。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス事業所としての意義や役割について全職員で話し合い、浸透できるよう会議等の場においても確認し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントやお祭りなどに積極的に参加している。ホーム内での催事には近所の人や家族等にも声をかけ交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃の散歩やイベント時等に外出、外食に出掛けることで外部との接点を持っている。また、年に数回、近隣施設へ事業所の紹介と交流のお願いをした。認知症があっても通常の生活ができている事を行動を持って伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月(偶数月)に開催。事前に検討事項提示。会議への参加を通し活発な意見交換をお願いしている。地域の情報を取り入れながら、利用者へよりよい生活に役立てて行こうとしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	在宅独居の方の受け入れ等において高齢福祉課や社会福祉課との連携を取っている。困難事例等では、包括支援センターや介護保険課との相談もさせて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待についてはパンフレット等を用いて具体的な例を示しながら勉強会を開催。また、カンファレンスやミーティング時においても随時話し合いを持っている。止むおえない場合においては家族からの同意を貰う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスやミーティングの場において虐待防止の話し合いの場を設けている。接遇のあり方について情報を共有しながら全職員で確認しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人となった家族の方がいたので相談に応じた事がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する前にも面談を行い、納得して頂いてから契約をするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会を開催し、意見を伺っている。また、家族の面会時には話し合いを持つようにしている。利用者からの要望も記録している。それぞれの情報について週1回のカンファレンスで確認し合い運営に反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の全体会議や週1回のカンファレンス等で職員からの意見や気付き等を聞いている。現場から見えた提案として取り入れ、事業内容の方法を変更したり福祉用具導入の検討等を適宜行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実際に一緒に仕事を共にしているため職員と接する機会は多くあり、意見等を聞きやすい環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での研修・勉強会の他に、外部の研修会に参加しやすいように研修情報を全職員に伝え参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お互いの運営推進会議への参加や事業者懇談会等には積極的に参加するようにし、交流を細やかにして意見交換を行っている。また、資格取得の実習生や体験学習生も受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスをご利用される前に面談を行い不安な点や要望を聞き利用者本人や家族が不安なく生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスをご利用される前に面談を行い不安な点や要望を聞き利用者本人や家族が不安なく生活できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を行った際、他のサービスが適当な場合は相談の上、他のサービスを勧めたり、その他の施設見学等も努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全てを職員がすることなく、出来る事は自分でしていただくよう声かけや日々のコミュニケーションを取るようになっている。また、お茶や食事、おやつの中には職員も同じテーブルで一緒に摂っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも理解を求め共に生活していく上で良い関係を築けるよう、利用者に対する情報の共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散策またはドライブをしながら市内の馴染みの場所を回り思い出を語るのを傾聴している。また、近隣の人との交流が継続できるよう、馴染みの人との外出や外食等の支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の位置を配慮し、トラブルを回避でき、コミュニケーションが取れやすい環境作りに努めている。また、身体機能が低下している利用者をそうでない複数の方が手助けしている状況も見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、利用者が入院したり亡くなられた時には、家族の支えになれるよう相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前より、本人、家族と話し、担当ケアマネジャーやサービス担当者からの情報をもとに確認しながら意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の面談や情報意見書等で把握するようにしている。その時点で把握しきれないところは入所後、本人や家族から再度聞きとりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録や観察を基に、カンファレンス等での情報交換や医師からの指示内容を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎に担当職員を決めている。担当者をはじめ全職員でサービス内容の検討や修正をしている。利用者本人の希望や意向を踏まえながらも現状に即した介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や職員間の申し送り長、カンファレンスにて情報の共有をしながら日々の状況把握を密に行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅医療の必要性のある利用者には、医師の往診や訪問看護による医療管理や指示に基づいた介護をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人ひとりの支えとなっている家族や友人、趣味の仲間等の面会や外出の支援をしながら、心豊かな生活ができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する病院への受診を優先しているが、ほとんどの利用者は当施設のかかりつけ医に転向している。必要時の他科受診時には、家族もしくは職員が付き添っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の支援の中で記録や緊急報告等で看護職員に伝達。看護職員は、利用者全員の健康状態を確認し、介護上の注意点を決められた記録スペースに記載し、全職員が把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院する場合は施設側と病院のケースワーカーや医師、看護師からの連絡の取り合いをお願いし、利用者が安心して治療できるようにしている。また、早期退院ができるように病状の確認を病院側から説明を受けるなどしている。病院側からの利用者に関する質問に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに関する説明を行い、方針を確認した上で同意書を受けている。変化する利用者の状態に応じて、本人・家族・医師・ホーム職員で話し合いを持ち、方針を決めたり、適宜修正を行い慎重に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網での連絡、また医師が24時間体制なので、その際には指示を仰ぎながら処置や対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる災害に対する避難訓練の必要性はある。2年前の震災時においては瞬時に指示を仰ぎ統制の取れた動きはできたが、職員の手が少ない夜間帯の対応も含め今後も運営推進会議等を通し、更なる地域協力体制を強化していく方向。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めた言葉かけにも年長者であるという事を意識し、自尊心を傷つけないように注意している。日頃から職員同士で接遇内容を話し合い、気付いた事はお互いに注意し合うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	直接要望や思いをを訴える事のない利用者も、普段の何気ない世間話の中で思いを表出する事がある。可能な限り希望に添えるように本人や家族と一緒に話し合う事がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクや行事を行う際にも本人の意思を確認しながら、無理には行かせず、自室で過ごす事を希望された時には本人の意思に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着ている服が不潔にならないように毎日洗濯している。誕生会やイベント等において、日常とは違う衣装を身につけたり化粧を施す等、非日常性を楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が主に行うが、野菜の皮剥きなどを利用者につづだって貰う事もある。配膳や方付け、食器洗い等は出来る利用者と一緒にやっている。利用者から要望のあった献立を取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は身体状態に応じて主食・主菜・副菜を食べやすい大きさや固さで提供している。食事量・水分量は記録している。また、習慣に応じた対応として食べられないものの代替えや食物残渣吐き出し食器を毎食時に準備をするなど。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の義歯洗浄や口腔ケアは自分で出来る方にはしていただくが汚れがきちんと落ちているかどうかは職員が確認する。また口腔内の観察は随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導や見守りなど各自に合わせた支援をしている。立位困難な利用者についても職員2名での対応で可能な限り便座での排泄を行えるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や十分な水分摂取、体操や散歩などを行うようにして便秘の予防に取り組んでいる。3日排便の無い方は医師への相談で下剤を使用する場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3日は入浴できるよう支援。利用者希望で湯加減や入浴時間等可能な限り対応。1対1で対応し、ゆっくりと話す時間になっている。立位の保てない方は福祉用具を検討したり職員2名で対応している。入浴剤を使用し楽しんでいただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設内で自由に過ごせるように配慮して、日中適度な休息を取ったりリビングで軽作業や談話、レク等をされて過ごされ、夜間には安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の訪問指導を定期的に受けている。看護職員からの介護職員への情報提供もある。「お薬手帳」や「お薬情報」用紙をすぐに確認できるよう毎日の介護記録ファイルに保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	サービス利用開始以前より家族や本人から情報を得て把握し、本人の得意分野に遭遇した際には率先して行っていただくようにしている。サービス利用後は利用者の状況を確認しながらサービスの修正をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に近隣の公園や商店への散歩や喫茶店でお茶を楽しむ等の個別支援をしている。年に数回、利用者全員が参加できるようにいつもより少し遠出の外出も計画し喜ばれている。本人の希望時には家族へ話し、家族の協力が得られるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口で預かっているお金を利用者本人に持たせ好きな物を買ってもらう。日々の生活の中で必要な物を希望する利用者には、介護職員と一緒に買い物に行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば手紙の代筆をしたり職員が取次、電話の利用も可能な範囲で自由にしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の作りや位置は一般の住居とほぼ同様の環境であり、住宅地内に位置していても特に騒音等はない。慣れない新規の利用者がトイレや居室の場所に混乱する事が無いよう、しばらくは分かりやすいように表示。リビングでの席の位置は適宜工夫。写真や季節の掲示物あり。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者が過ごしやすいようにリビングや居室の椅子やテレビの位置を工夫。一人ひとりの部屋を持っているため、一人でくつろいでいる事もある。リビングのソファに並んで話す人や、互いの部屋を遊びに行き談話している姿も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは使い慣れた物を自由に持ち込んでいただいている。炬燵・布団・仏壇・愛読書・写真・絵画・人形等、利用者一人一人がなじんできた生活の一部が物として残されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」を活かして生活できるように、個別的な働きかけをしている。手すりの利用や福祉用具、家具の位置、ベッドの高さなど利用者を取り巻く物の安全性と自立の支えとなるものを工夫している。		